



# 病棟保育士の仕事について

— 子どもや保護者との関わりを大切に —

保育管理課 病棟保育士 本田 素江

平成 29 年 7 月より病棟保育が始まり、1 年を迎えました。入院中の子どもたちに、遊びやコミュニケーションを通して心身のケアを行うのが病棟保育士の仕事です。

まず、プレイルームの清掃、おもちゃの消毒など環境整備から一日は始まります。そして、回診後の医師より患児の病状、検査等の予定、その日のプレイルーム利用の有無を確認し、それに応じて大まかな一日の予定を組みます。子どもの発達段階や病状に合わせ、絵本の読み聞かせや歌、折り紙などの遊びをプレイルーム、または病室への訪問保育で提供します。学童児には学習支援も行う他、コミュニケーションの相手として支援を行います。

また、家族ともコミュニケーションをとり、子どもの普段の様子を聞いたり、子育てや入院生活への不安を受け止め、

相談に乗るなど家族支援も行います。保護者が入院準備で帰宅される場合や、買い物、シャワーの間等、2 時間を限度にお子さんをお預かりします。

体調が悪い中での突然の環境変化は、子どもにも保護者にも大きなストレスですが、不安を和らげ、少しでも安心して過ごせるような言葉かけ、環境作りに努めています。その中で、医師・看護師・理学療法士・作業療法士と職種間の情報を共有することが不可欠で、保育にも大きく役立ち、連携の良さが病棟全体の雰囲気の良いさに繋がると感じています。

他には、子育て支援として、第 3 火曜日にボランティアを招き、松山リエール保育園で開かれている「かみしばいおはなし会」の広報活動、プレイルーム・病棟の壁面の飾りつけをしています。また、負荷試験の半日入院、骨折で長期入院となる患児のケアなど、仕事は広がりをみせています。子どもたちにとって、辛い治療や窮屈な入院生活の中で、コミュニケーションをとることで笑顔が見られた

り、保護者から「こういった場所があって助かります。ありがとうございます。」と感謝の言葉を頂いたり、プレイルームまで来て、にっこり手をふる子どもの退院を見送る時、やりがいを感じます。

対象は乳児から中学生までと幅広く、生育環境や病気の状態も異なるため、関わる時には配慮が必要となります。個々の対応をしていくためにはスキルの向上が課題として挙げられます。そのため、そのための努力を惜しまず、子どもとどんな時も笑顔でいられる病棟保育士でありたいと思います。



小児科医師、病棟棟長とともに（筆者は右から 3 人目）



今年度の新人職員

# 新人職員宿泊研修を終えて

総務課 河野 桂治



平成30年6月1日・2日の2日間、新人職員宿泊研修を実施しました。今年で4回目となり、49名の新人職員（看護師、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、放射線技師、事務員）が職場を離れ、道後に向かいます。

平成27年度に看護部主導で始まった研修ですが、現在は総務課を中心として運営し、院内の主要な行事として定着しつつあります。

今年の病院スローガンは「ハードからソフトへ育成・成長・貢献」を掲げています。自分自身の職種だけではなく、他職種のキャリアアップにも興味を持ち、広い視点で業務に関わっていくことができるよう、コミュニケーション技術を学び、かつ同期の結束を高めることを目標としました。

1日目午前のカリキュラムは、振り返りの時間です。これまでに仕事で経験したことや感じたことをグループ内で話し合いました。場が盛り上がるにつれて共通する話題も多く、決してひとりではなく、みんな同じように悩んだり、考えたりしていることが共有でき、同期の大切さを知るきっかけになりました。

午後は講習の時間です。外部講師をお招きし、「セルフマネジメント向上研修」として講演いただきました。感情の受け止め方やコントロールによって、良好な人間関係を築くコツを学びました。

夕食は旬の食材を使った豪華な会席料理を楽しみました（ただしアルコールはなしです）。途中、グループごとに工夫を凝らした出し物を披露し合い、笑いのある和やかな雰囲気でした。

2日目は道後の史跡を巡るオリエンテーリングを行いました。チェックポイントを通過しながら町並みを散策し、歴史

を学びます。もちろん途中の足湯やソフトクリームは必須です。天候にも恵まれ、親睦を深めることができました。

今回の新人職員宿泊研修を通じて、各々が同期や上司との交流の大切さ、仕事への意気込みを再確認しました。また、不安を共有することによって、仲間意識の向上にも繋げることができました。就職して2ヶ月、まだ慣れない環境のなかで苦勞することもあると思いますが、彼らがより良い気持ちで仕事に取り組み、ひいては成長を感じることができるよう、今後も総務課の一員としてバックアップしていきます。

研修中の様子

